

特別
r 4
5017
2



北越志

信濃 陸奥 上野
下野 武藏 附

坤

武陽江西澁谷人龜協從輯

柏崎之濱ヨリ出
女高人



越列苧葉郡柏崎宿ノ北裏即北海ノ濱邊也此所漢
人等多々居住ス漢人ノ妻子桶ニ鱈ヲ入ニ人或三人連
ニテ二十里三十里ヲ遠シトセズ魚賣ニ出ル支夥シ其様
ハ皆脚羊カウカケヲ掛笠ヲガフリテ出ル荷桶ノ上ニ簣
アリテ此内ニ着替ノ衣類或ハ針仕支ナドノ用意アリ
柏崎宿ノ南裏ニ柏崎小太良勝長ノ古城跡アリ今ハ此所禪
宗香積寺ト云寺地ニテアリ小太良ト云者往古ノ支マ年
曆不知云

同所本宿ト云宿ハハレ也此所ニ棺ヲ埋シ跡アリテ十年ホ
以前此地ニ用アリテ堀ケレバ管玉夥ク出ル是古ノ玉ノ具足ト云

者マテ柏崎小太良ガ棺モアラヤト近俗怪ト云

亦此地ハ日蓮上人佐列ヨリ歸國ノ節此所ヨリ上リト云テ今
三休庵トテ日蓮宗ノ庵室マリ

同郡柏崎宿ヨリ鯨波宿ト云マリ此鯨波ヨリ鉢崎宿迄ノ
間ニ采山峠トテ三里ノ峠アリ此處北海岸ニ七度海ヲ詠
七度海ヲ見スト云難所也此山峠ニ赤度ノカ餅トテ餅ヲ
ツキ高ク出茶屋ニ斬マリ此茶屋ニ旅人休フトカ餅ノ由
来トテ一卷ヲ取出シ讀ム也其文曰

此餅云小のち此屋下作記

一杯高ク出茶屋ノ下作記

すしませ由威智の所又、似字をみよふに愚力に武
為防の所何やうきしませとて別由を記す
丸にはけしむるを所とて山と名取別山と名を
あり又之より南にあり胞と細めなり胞唯大能
卵とて多しむるを所とて所と名を
此のふき度胞をおさのせむる下の石あり別脈を
所のふき度胞は八幡の所とて一由を記す西に
ありしる心なき人なりしるを記すありしる所
産ありしるを記すありしるを記すありしる所
別由ありしるを記すありしるを記すありしる所

玉名代とてむらめ一切女の守神とてしる所のふき
是よりしる所のふきありしるを記すありしる所
わらわさせのふきありしるを記すありしる所

敬後玉名代城記を記す別山中の茶名

如此アレド此説未詳全ク餅ヲ賣ニカ為ナルヘシ

頭城郡鈴崎宿ヨリ柿崎宿迄二里半ノ間幅三丁モ有リテ
二面ノ破地也往來ノ歩行甚難義也此土ノ者ハ比白齒子
キ下駄ヲハクセ荷物持馬土加駕籠カキテ至ル迄皆下駄

ヲハク

下駄如此



黒川

下野国ニ同名アリ

柿崎宿ノハツレニ有リ長三十間余ノ板橋アリ此橋ノ名ヲ
千貫目橋ト云

同宿ヲ通りシ時宿ノ入口ニ魚屋アリ此見世ニ纜魚イカ可有
甚タ大ニ頭足ヲ除キ胴斗リ長サ金差ニテ一尺二寸余有
此土ニテモ此ノ者至ヲ稀ナリト云谷ニ虎斑黒赤色ニテアリ

圖



林火土

頸城郡濱ハミガシマノ子新田九戸村此兩邑ノ内ニ朝日池亦午房

飛上云池中ヨリ出ル是土ニヤラス茅ナドノ根ノ朽リ名者ト
見ヘタリ其申ニ近郷ノ土俗池水中ニテ鎌ヲ以テ伐出シ
固ニ上テ六七十日モ乾シ市中ニ賣ル直段ハ五寸四寸程者
ニテ一文位ナリト云

往古親鸞鳥聖人柿崎宿ニ旅泊シタモウ時ノ歌ニ柿崎ノ
泥ドロノ名ナト云れバ主ノ心熱アツク子ありタト詠セシモ此柿崎
宿ニテ今ハ其家絶テ聖人ノ真筆ハ且寺同宿ノ内淨
福寺ノ宝物トナリテアリ最六字名号ニテ歌ハ服書ナリ其
宿ハ扇屋ト云者ニテ此宿内ニ扇屋ノ屋鋪トテ今ニ跡
アリ亦扇屋ノ書習朝聖人ノ出立セシ跡ヲカク名号ヲ

乞ケレハ川ノ向フヨリ書シシ川越シテ谷号ト云ハ妻ノ且寺同
郡高田寺所本折言寺ニ納リテアリ

直江之津

頸城郡高田ヨリニ里程北ニ今所ト云所アリ此地昔ト直江
山城守ノ居城ニテ此所ヲ直江津ト云リ此所ニ其頃ハ扇ノ
橋トテ橋アリ今ハ無シテ舟渡シ也今亦高田ノ内ニ直江
所ト云所アリテ扇ノ橋ト云モアレド皆右ノ寫シ也

同郡西濱ノ内此浦宿ト云アリ此地即北海ノ岸ニテ甚ノ
難所ナリトモ昔シ義經奥列下向ノ節此濱ヲ通リタモフ時
良等ノ内一人ノ兒男ヲ連シテガ誤テ其子此所ノ波ニ折込シ

死タリ其時義經ノ詠哥ニ詠タリ云ハ此浦ノ波松ノ木
の泡トシテシセヌキト云年号月日アリテ斤ニ義經御詠哥
ト印シ良等辨慶書之ト有り此書イカナル故カ不知此所
百姓七右衛門ト云者今ニ所持ス

同郡深所宿白邊ニテ内庭ナドハク下駄アリ此名ヲ中折ト
云由シ

下駄之圖



他國稀ナル下駄也

同所及此近郷ニテ出産ノ小兒ヲ藁ニテツグラト云物ヲ
作り此器ニ入テ凡百日斗リ亦合員ナク者ナドハニ百日モ置ト云リ

ツグラノ中ニハ初糖ヲ入其上ニ燈心草ヲアミ鋪テ其上ヘ生ヒ子
鹿ヲモクリ置ト云

ツグラ之圖



亦此器ハ此國ニ限ラズ奥列會
津下野ノ息邊全ラ用之

茨川 舟渡也

茨羽郡茨村ト荒濱村ノ境ニ百リ氷上此所ヨリ四里程上
黒姫山ノ裾ヨリ出ル

同郡宮川ノ宿息邊ニテ塩辛ト云物ヲ製ス東都ノ塩辛ニテラス
四月ノ頃鱒ノ油ツヨキ頃長四五寸ノ魚ヲ頭ト腹ハタラ去リテ

能ク洗ヒ桶ニ入塩ヲマブリ一ナラベ置テ酒ヲフリ亦魚ヲ置テハ酒
ヲフル度幾度モ同シ結ヲ終リテ蓋ヲシテ目張ラシ冬ニ至リ取
出し食用ス味美ナリト云

牛ノ角突

同列胡志郡ニテ牛ノ角突ト云キ夏アリ毎年三月初ノ寅ノ日
同郡内ニ六ヶ村ノ男牛斗リテ虫ガメタノス原ト云所ニ引出
牛ノ勝負争フ事也此日見物ノ土俗多ク出ル事ナリト云

三嶋郡之婦人等
物詰之躰



越列三嶋郡内北海濱路ニテ宿所共多ク舟渡ノ場
ノ繁昌ナルガ故男女風躰及暮方ナド魚沼郡ト違ヒ花
美也然レ凡衣類ハ皆木綿ノ模様ニテ夏モ綿木綿模様
ナドナル單物ヲ着ス此邊ニ見シ婦人等十七八歳ニテモ
多ク板ノ縮緬ノ帯ヲ着ス江都ノ髮置ノ兒女如シ皆脚羊
ヲ着ス中モ郡内ノ大嶋ノ脚羊有リ是伊達下見ハテ亦他行
スル時多クハ綿帽子ヲ着ス帽子ノ細キ程伊達ナル夏ト見
テ若キ女子ハ至テ細シ是ハ片^{ハナ}願^{ハナ}卷^{ハナ}ニ等シ

黒姫山

同郡塚之山村ヨリ五里程隔リ南西ノ間ニ見シ

洗見川

同郡塚之山村ノハツシニ有リ舟渡也操舟トテ川ノ左右ヨリ

綱ヲ渡シ是ニテ舟ヲ操シ也信列丹波嶋ノ渡ト同シ

鯖石川

同郡北條村ハツシニ有リ常ク如キ舟渡也

同郡寺泊ノ宿ハ白川領ニ此宿ニ所年奇役ヲ勤メ白川公ヨリ帶
カヲ免サシ居ケル幸ナ嵐武を衛ト云者アリ此家當申年迄ニ千
千四年ニ及ブト云昔ニ順徳院依列ノた迂ノ節此家ニ入日和ヲ
待タマイシ上段ノ間アリ其次ニ座鋪二間アリ此座鋪ニ義經
貞列下向ノ竹即暫ク逗留セシト云其時舟渡ヲ始シ人数十七人

夕暮之岡

也其ミルトテ義經ノ陳羽織螺貝差置タテマフ品今ニ有リ

三嶋郡渡辺邑ト中嶋村ノ境ニアリ往還ヨリ丸ノ方ニ石碑アリ其碑曰

右照ニヨリテハ左ノ方ニ有リ

薩達摩寺陀利伽素祖覺

國上山 万九師結縁所

左照ニヨリテハ右ノ方ニ有リ

三嶋蒲原郡ノ邊ハ魚沼郡ト邊ニ五月ノ節勺ニ曾子アル家ニテハ幟ヲ立サシ凡ハ戸ト邊ニ皆一本ツクテ吹流ニ亦

鯉ナド附シ又ナシ梓モナシ皆繩結ナリ



弥彦山

三嶋郡ノ内弥彦山下越後ニテノ大山也即市ニ弥彦大明神ノ宮アリ此神前ニ納メタル差渡ニ尺斗リノ鉄鉢有リテ其鉢ニ銘アレヒ諸人寫ス又テ堅ク禁メ不許柏崎ノ住櫻井氏白川公ノ命ニ因テ漸ク一枚寫之タルヲ求テ買之

弥彦山明神之神前之有之鉄鉢之銘之寫

弥立久住節

嘉和元年
丙午年

九月七日

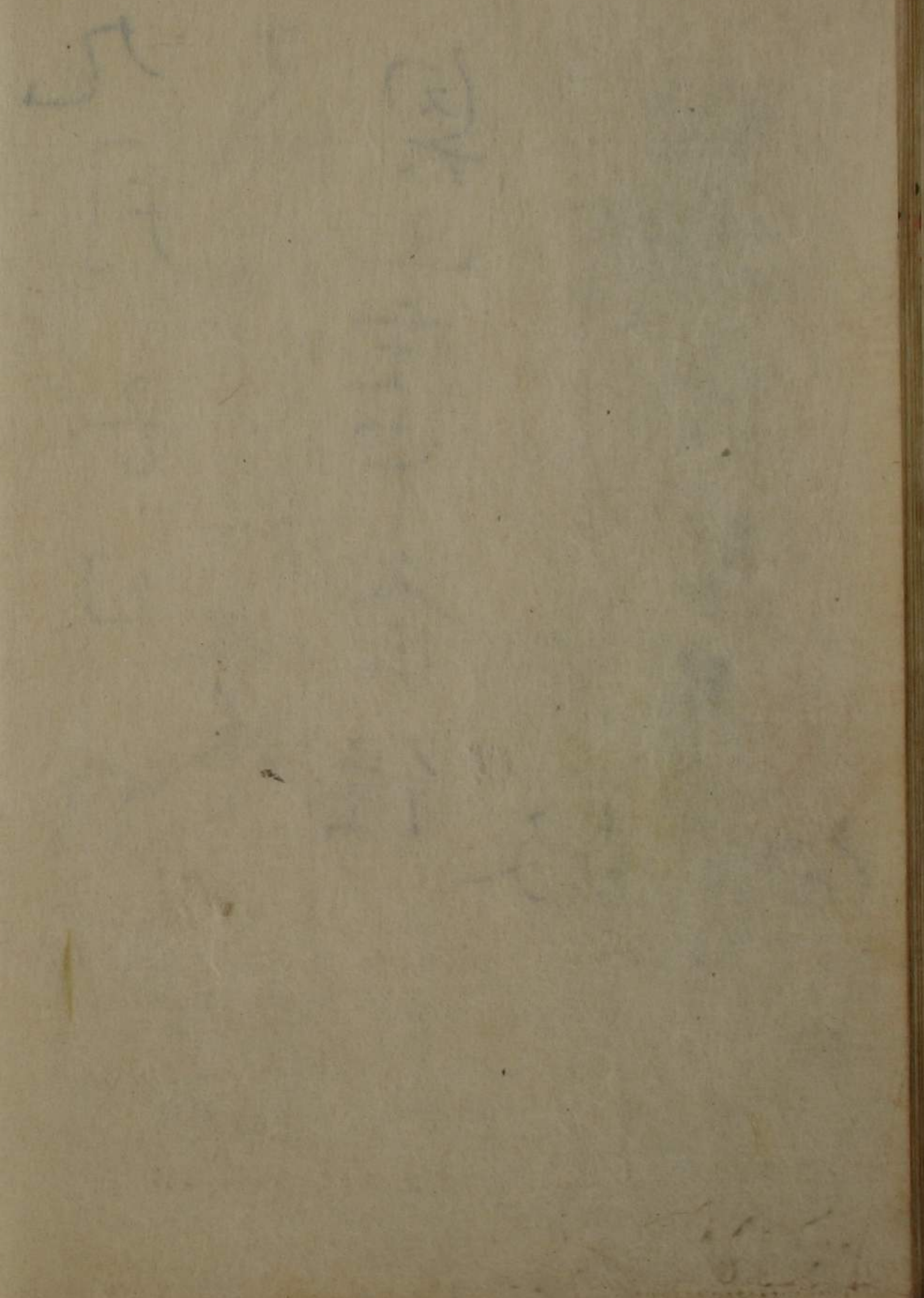
人

奥山庄中条住

相次郎若基

白 録

親鸞聖人之舊跡
繫樞之圖



繫櫃 ツナギカマ

越後七不思議之内

越前蒲原郡田上邑有リ東本願寺末同村西養寺
持場ニ堂ハハレ一院ニ立ズ堂守ノ僧一人任ヌ櫃ノ樹ハ
堂ノ右ノ方ニ有リテ根ヨリ大小五六本モ出テ凡二間余ニ廣
カリ高サハ一丈斗モアリ實ニ常ノ櫃實ヨリニミコクモトリ方
兩方ニ小サキ穴ノ如キ跡アリ是系ヲ以テ繫キタル穴ノミルニ十
リト云々 如此兩方ニアリ



柄目木村 カラメキ 陰火之圖



柄目木邑陰火 越後七不思議之内

越前蒲原郡柄目木村百姓丈七ト云者ノ方ニテリ此丈七方ノ
圍炉裏ノ南方隅ニ天斗竹ノ小口ニ銅ヲ卷テ立テ有リ陰火ヲ
出ント云時ハ附木ニ常ノ火ヲトモシ右竹筒ノロニカガスト直ニ筒ノ
内ヨリ火出ル吹消ス迄ハイツマデモアリノ夜ハ燈ニ換用フ亦湯茶
ホ此火ニテハカスト云其始リヲ尋ルニ七十年程以前イリノフチ
破レテアキタル時イリ火移シヨリ初テ火ノ出ルヲ知ト云亦同
郡ノ内妙法寺村ニモ此陰火アリテ此所ニテハ筒ヲ及テ隣家ニ
移シ用ルト云未ダ見

同郡ノ内三條宿ト云アリ此地ヨリ三里程南方ニ加茂郡トテ長

キ所屋アリ此所ニ加茂ノ社アリテ祭リ京都ノ通りナリト云亦所
ノ南裏ニ川有テ加茂川ト称川幅廣ク氷甚スクナリ破利ノ淵
多有テ京都ノ加茂川ニ等シ亦川上方ニハ幡^{ハタ}アリ下ニ北野ト云
所アリテ天神ノ宮アリ其由ヲ尋ルニ古レ此所ハ石川ノ神領トテ
京都加茂ノ神領ナリシガ寛治年中ニ京都引レ故其跡ニ
加茂ノ明神ヲ移シ此エヲ加茂ト称シト云

同郡新津三條ノ邊ハイロト云テ五月一日ヨリ六日迄ノ間ニ
風ヲ上ル其風皆人形或ハ万物ノ状ニ作り彩色ヲナリ其細
工至テ手際テ家々自分作り也亦虎尾ナシ



草生冰之油
熱土壺之圖

草生水之油

越後七不思議之内

越前蒲原郡金津庄栢目木邑ノ枝御草生水ト云所ヨリ
燈油出ル小高キ山ノ手前ニ熱壺トテ差渡し三間斗ノ所
廻リテ六角ニ丸太ヲ以テ囲イ竹ヲ垣根ノ如クニカエイ有リ其内ハ一
面ノ水ニシ真中ノ所ハ青白色ノ水湯ノ者莫ルカ如ク吹上ル也其廻
放散シテリテ是ニ油溜テ居ル其色赤黒色ニシ臭気甚強
是ヲ採ニ圖ノ如ク中ニ梁アリ是ヲツタハリ水面ニ浮フ油ヲ尾
花ノ穂ヲ摩テ奇手ニシゴキテ器ニ入ル也亦此傍ニ石三尺ニ
一間程シ丸太ヲ以テ拵トナシ壺ト斗リ唱テ物凡十四五ヶ所モアリ
皆石ノ如ク水面ニ油浮也亦此外ニ同郡内湯川邑金津村

天ヶ澤邑ニモ油出ルサレ凡各ハ皆草生水ノ油ト云右四ヶ所ノ
元方常請員八柄目木邑百姓茂兵衛ト云者代々家督
トシテ年御運上金八十兩宛納之也

同郡中嶋村百姓星野茂兵衛ト云者ノ地内ニ池ノ大綱言ノ墓
有リ其由ヲ尋ルニ昔シ平家盛ニノ頃源頼朝ヲ既ニ害セントノ
評義アリシ時池ノ禪尼ノ説ニ依テ頼朝ヲ死シサセケリ其後
鎌倉御世トナリテ右恩ヲ報セントテ禪尼ヲ尋ケレハ死去セリ
因テ其子池ノ大綱言ニ浴人ナリシヲ呼招キ田地五百丁歩轉置
馬五百疋ヲ下シ上列大嶽ノ庄ニ差置タニテヲ梶原源太カサヘ
ニヨリテ越後國中嶋、稻五百疋ヲ下シ差置レタリ

五百疋ト云
所中ノ嶋

村ノ枝々此中嶋往還ヨリ東ノ方ノ屋鋪ニ大納言並家臣大竹下
 田稻庭母達四人ヲ供シ住ケルニ大水出テ大納言水溢シツイニ
 果タラ其時イカナル夏ニヤ死骸ハ一里程川上ノ方所村ニキリ又
 土人常ナラ又人トテ其所ニ葬シテ四人ノ者死骸ヲ世貝ヒ此地ニ
 葬ス今星野ハ大竹ノ子孫ナリ詠ケアリテ大竹ノ家斷絶ス亦
 外三人ノ子孫モ村中ニ今ニアリト云
 同郡 五十公野所ノ合往來ヨリ右ノ方田ノ中ニ寐起ノ松ト
 テ松三本アリ夫婦ト子ナリト云昔ハ此松夜ハ枝ガカリテ
 人音スル時ハ忽チ枝起キリタルト云リ

三度栗ノ舊跡



三度栗ノ舊跡
 孝順寺
 寂祐山

三度栗

越後七不思議内

越前蒲原郡福井新村字上野ト云所ニ有リ是親鸞
聖人旧跡ナリト云此地水原御支配ニテ二十八畝歩程ノ所
除地也大小ノ栗ノ木百本ナリ有リ余リ大木ハナシ三度ト云
ハ五月ノ頃一度ナリ土用週ニ度秋ノ彼岸ノ頃一度ナル故
ニ度栗ト云カシ凡初テト二度月ハ食用ス後ノ度ハ状アル
ノミニ食用ニナラス栗ハ至テ小シ味下品ナリト云

ハツ房ノ梅

同七不思議内小嶋村ニナリ未見

逆ナ竹

同七不思議内新原ニナリ未見今世絶テ不生ト云

し之杓如来

同郡^{ヤマト}し之^ニ真言宗し寶寺ト云アリ此寺ニ大杓如来アリテ
甚人々信心アリテ参詣多シコトヲ其中ハ此土般若曰ト云

阿賀野川

舟渡也

同郡津川町ノキ前ニナリ川幅ニテモ有リテ新原ヨリ通
舟ス水上八日光ヨリ出ル此土會津領ニテ新原迄舟路十六
里有リ亦此川ノ岸ニキリ山狐尻ノ城トテ古城跡アリ其
昔ニ百八石ヲ領セシ^カ金上遠江守ノ城跡ニテ此下ニ鹿^カ杓^ヤ村ト云
アリ此村庄屋大井平藏ト云是金上ノ家老ノ子孫ナリト云
亦此川三里程下ニ岩屋村ト云所アリ此所ニ平ノ之盛ノ石

塔アリ之盛生害ノ場也ト云亦此下ニ塩崎ト云所ニ之盛ノ
真方入氷ノ場アリ空女之盛ノ生害ニ逢ニテテク急キ時アリノ
シマク鶏ニカハリテ時ヲツクリシ故室此所ニテ入氷ス故ニ今ニ於テ
此迄自邊鶏時ヲツクル事ナシト云

新谷川

同郡新谷宿ノハツシニ有リ余程ノ川幅ニテ土橋アリ

同郡山内村ノハツシニ関所アリ溝口出雲守ノ持也

同郡赤谷村ノハツシニ亦関所有り此所ヨリ會津領ニテ
即會津公持也

諏訪峠

同郡行地宿ヨリ津川所迄ノ間也二里十五下峠ヲ難
所也

天満川

同郡天満宿ノ手前ニ有リ舟渡シ也

中峠 鳥井峠 カイホウ峠 車峠

同郡天満村ヨリハツ田村迄ノ間クニ有リ

越後陸奥ノ境

越列ハ蒲原郡ハツ田村切ニテ宝川村ヨリ川沼郡奥列
也境石ノ棒杭アリ此自邊比皆會津領也

越後國物産

黄蓮 出所

魚沼郡内八海山 金城山 銀城山 駒ヶ嶽 米山
亦同郡條山ノ續ニ大峯ト云所ニモアリ

鬼督邨

三嶋郡塚ノ山ヨリ北條邑迄ノ間土手ニ柏葉ニ車輪ヲナス
鬼督邨多ク産ス

濱防風 蔓荊子

頭城郡柿崎宿ヨリ柏崎邊ノ濱甚多ク産ス近郷
ノ土俗蔓荊子ヲ採リ陰乾シ香ニ用ルト云

延胡索

魚沼郡宮原村大井平村邊ニ多ク有リ
如シ同郡伊達村ト十日所ノ間ノ土手ニ至テ細葉ノ者有
亦信別志久見峠ノ南ヲウケタル所ニ有者根長ニ外皮
黄ニシ中ハ白シ



如此

早蕪

同郡田澤邑ノ山野多ク産ス亦信別水内郡桑名川ノ手前
北ヲウケタル山ニモ甚多ク此土ノ方言カメツコト云
セウクハカマ

同郡水澤村ノ邊至テ多ク亦信別水内郡蕨野村邊

ノ水澤ノ地ニ多ク産ス

ヤシヤビニヤク

同郡松山ノ嶺ニ鳥ガ峯ト云アリ亦此嶺ニ山伏山トテ此所
多ク産ス此山中鳥多ク止宿ヲナシテ鳥糞ヨリ生レト云

霹靂斧

石堅

同郡伊達村ノ内赤羽根ト云相同郡下舟渡邑ノ内正面ノ
原亦頭城郡妙高山ノ東ノ方ヨリハ多ク出ル

蛤石 ラカシ石 立音石

妙高山ノ近邊燒山ト云所ヨリ出ル

神代石

頭城郡内トウコニ山ヨリ多ク出ル

但同郡板橋村百姓渾川平丸衛門ト云者奇石千余箇
シアツメテ所持ス板橋村迄柏崎ヨリ凡十五里程ノ所

瑪腦

荊葉郡柏崎宿ノ濱邊ヨリ出ル亦三嶋郡弥彦山ノ
下通ヨリモ出ル

水晶

越列下新發田島邊ヨリ出ルト云未詳

雪魚ユキウナ

前羽郡荒濱邊及寺泊邊海中ニ生ズ九十月ノ頃ヨリ

春二月頃迄ニ取テ賣アリト云雪ヨリテ魚ト化シタル者ナリト云
状圓シテ鱗アリカウフリト云魚ニ似タリト未生物ヲ不見

ゴベ

北海ニ多ク住ム鳥ニテ其ノ大鳥也全身黒色ニ凡八九尺モ
有リト云状未見

信濃国

信列埴科郡婦人
他行之躰



信濃国
信列埴科郡
婦人
他行之躰

信州一國モ北越ト同ク女ノ衣類皆白木綿也サレモ模様ア
 卜小形ニヤサシ地合細キ木綿ヲ多ク黒地ニ深裾ニサク
 模様白上リニ斗リ深又キ紋ヲ付^{モイロ}淡紅色木綿ノ裏ヲ附テアリ
 遙ニ望メハ結布ニ等シ帯ハ小紋紗綾ノ類ヲ着ス脚羊モ
 甚太紅緒ナドヲ用フ

伯母捨山

同郡屋代宿ノ入ヨリ見ル其下通り田四十三牧アリ是
 即田毎月ト云此土也亦山中ニ伯母石姪石アレモ往來ヨリハ不覺

信州氷内郡之魚道
 民婦農業之躰



水内郡埴科郡ノ邊田園ヲ眺レ耕作男ヨリ婦人多ク
中ニ男ニサリニ股引ナドハキタルモアリ亦常ナル小妻ヲ
帶ニハサミ頭ニ皆白キ手拭ヲハムリ脚羊ヲ着シ先形者
多ク
埴科郡坂木宿ノ内百姓ニテ出浦要人ト云者村上吉清ノ
末孫オリト云未詳

矢代川

同郡矢代宿ノ先舟渡シ也操リ舟トテ川ノ左右ヨリ太キ
綱ヲハリ是ニテ舟ヲ操リ渡ス也

犀川

丹波嶋村ノハツシニ有リ舟渡ニテ渡シ方矢代川ト同シ此所ヲ丹
波嶋ノ渡シト云

同郡中御所村ト云所頼朝公ノ屋鋪跡ニテ頼朝公舟ノ本
尊ノ觀世音アリ

同郡善光寺ヨリサニ手前ニ加藤九衛門ノ尉重氏ノ舊跡
アリ同所ニコレカヤ親子ノ旧跡アリ

志久見峠

信別高井郡志久見村ヨリ大井平村迄ノ間ニ里余ノ峠ニシテ
甚ノ難所也

志久見川

石川也。是信列越列境の川にテ川ヲ渡ルハ宮ノ原村ナリ
此村ヨリ越後国也

奥列會津領ノ邊
婦人農業之躰



陸奥国

奥列會津領近郷ノ土民耕作ニ出ルニ猿袴トテ江戸ノ
踏込ノ如キ物木綿或ハ麻ニテ拵男女共ニ皆着スモ、此處邊
木綿ニ模様ナドハ付ズ

同列川沼郡斤門邑ノハツシニ拵ノ宮ト云合ノ宿アリ此所ニ
拵明神トテ社アリ昔シハ幡太良奥列下向ノ節ノ建辛リ
ト云

同郡塔寺村ニ弘法大師ノ作立木ノ觀音トテ高サ一丈六
尺ノ觀世音アリ此所山伏持テ金塔山惠隆寺ト云

鶴沼川

同郡坂下村ノ末ニ有リ舟渡也此所モ操舟テ水上六日光

ヨリ出ル坂下村ニテ多ク煙草ヲ作ル江戸ニテバンキト云煙
草アリバンキニアラズ此坂下也

會津若松

奥列會津若松ト云所會津公ノ城下ニテ三十四方程ノ
所屋アリ此若松ノ内七日所ト云ニ會津物トテ漆器物器器
々ノ間屋十軒斗モアリ中モ白木屋笠笠折ナドヨキ見世也

籠澤峠

同所若松ヨリ赤井村迄ノ間ニアリ一里余ノ峠ニシテ一名セ十カ
アアリト云

東松峠

奥列川沼郡野澤所ヨリ斤門村迄ノ間夕登リ一里下リ里
峠也

黒森林峠

同列會津郡原邑ヨリ赤津村迄ノ間夕六丁余ノ峠也

勢子堂峠

同列岩瀬郡勢子堂村ヨリ三代村迄ノ間夕一里余

奥列白河 白河公ノ城下

境ノ明神

同列白河郡白坂所ノ公ノ往來ヨリ北ノ方小高キ所ニヤリ是即

奥列下野国ノ境也

遊行柳之圖



湯泉ノ社

道野辺ノ清水

田五極
之柳

遊行柳

芦野宿

下野国

遊行柳

下野國那須郡芦野宿ノ入口南ノ方田中ニ有リ柳樹ノ高サ
一丈ニ尺斗リ下ニ芭蕉ノ碑有リ石ノ高サ四尺斗生石ニ其ノ
田一畝極々之ヲめ柳ノ上ノ有リ亦此下ヲ流レ水ノ道野
迎ノ清水也

素麵地藏

同国塩谷郡ウチノ氏家村内字道原上云所往来ヨリ東ノ方
ニ地藏堂アリ昔ニ此地藏人ト化シ日光ニ行テ素麵ヲ乞程エ
ソアレ日光一郷ノ素麵皆賣上サセケル故里人大ニ恐シテ是ヨリ
日光セメ止ト云リ

恵津川 舟渡也

塩谷郡恵津宿ノ末ニアリ氏家宿ト白澤宿ノ合ノ宿也
水上ハ日光ヨリ出テ下ハ鹿嶋ニ落ルト云此處迄ノ渡舟ハ頭尾
ナシ作シ者ナリ外川々多ク此状ヲ用フ



宇都宮明神

同列河内郡宇都宮宿中程ニアリ宮ハ至テ高ニテ大
社也此地石澤山ノ場ニ家々ノ屋根切石ヲ以テ風止ヲス亦

宿内ノ土倉ニ石ヲ積立タル藏組アリ

荏ノ宮明神

同列河内郡荏ノ宮宿ノハツシニ有リ昔ニ奥列下向ノ雲
上人歸路ノ竹即此地ニテ果タモシ荏ト化シテ京都返夏ヲ
告ケタリト云其人ヲ祭リタリト云

同列那須郡芦野宿ヨリ越堀宿迄二里十テノ間ニ坂
ノ数二千三坂アリ

黒川 越後ニ同名アリ

同列那須郡黒羽領内ニアリ

中川

同郡鍋掛宿ノ合ニテ土橋アリテ亦舟渡ニ有リ

竹市川

同郡佐久山宿ノ合ニ有リ水上ハ羽列湯殿山ヨリ出テ下
ハ黒川ニ入ル

次女川

同列都賀郡羊田村ノ内ニ有リ小川ナレド舟渡ニセ水上ハ
大谷ト云所ヨリ出テ下ハ栗橋ニ落ル

小倉川

同列同郡亀和田村ト金崎邑ノ間ニアリ水上ハ日光ノ在リ
出テ下ハ栗橋ニ落ル

佐野ノ猿橋

同列女藤郡天明宿ノハツシニ有リ長八間程板橋ニテ橋
杭十三瓦右ヨリ持出テ作りたる者ナリ

渡良瀬川 舟渡ニテ郡境ノ川也

川ヨリ東ハ足利郡西ノ方ハ梁田郡也水上六桐生ヨリ出テ

下ハ利根川ニ落ル

下野国ト上野国ノ境

下野國梁田郡堀米村ト上野國上田郡矢場村ノ枝御
新宿ト間ニ小川有リ是國境也

廣瀬川 舟渡也

上野國佐位郡竹子村ニ有リ竹子ヲ渡シト云氷六間

口云所ヨリ出テ下ハ根利川ニ落ル

利根川 舟渡也

同列名波郡五科宿ノ手前ニ有リ氷六坂東川ヨリ
出ル

五科御関所

五科宿ノ入口ニ有リ公儀御関所ニテ松平大和守御預
リ所日光道中也

烏川 郡境ノ川也

上野國

同列群馬郡ト緑野郡境ニ有リ水六碓氷峠ヨリ
出テ下八閑里ニシテ流ル

碓氷峠

上列坂本宿ヨリ輕井澤宿迄ノ間ニ里ニテ四丁峠也峠ヨリ輕
井澤ノ方ヨリテ神明社アリ此所上列ト信列ノ境也

神奈川

武列ト上列ノ境川也

土岐川

同列比企郡高坂村ノ内ニアリ水上六秩父郡アカ谷ヨリ出テ

下ハ荒川ニシテ流ル

追分川

同列入間郡比企郡ノ境ニテ水六秩父山子ノ權現ヨリ出テ

下ハ荒川ニシテ流ル

入間川

同列入間郡高麗郡ノ境川也水六多摩郡ヨリ出ル

武蔵国

蓮生塚

同列大里郡熊ヶ谷宿ハツ石五輪塔也此寺即蓮生寺云

岡部六弥太忠純之墓

同郡岡部ト云所ニヤリ

堀兼井

同列川越領堀兼村ノ内ニ有リ石ノ井戸箇輪ニテ今ニ清水

出此地昔ノ鎌倉道ナルヨシ

大洞鐘

同列新座郡仙波ノ左下赤塚村有リ寺ニアラス妙ヒノ家ナリ

味リ大洞年中鑄タルヨシ



戦後編始の度

一寛文年中に江戶列明石の派人のよしと申す國に
あり小千谷氏より居住りて其君を明石氏と云く
土民の言に「おれりり」といふ事ありまんと云亦二の
世思ありて其人をちよむるをけりていふはははは
いふは元暦の比四國八海の浦に合戦ありて死せし
佐友次信の子孫ありと云ふ人々は世に傳へて
御成布史婦為地を事けるはかしの御も何れいふと
も月を澄く團圓の夜と成し時ちや女子もいふと
ありけりは親子之を以て子孫に傳へて織けり



相城存儲とすも、越後一玉を所是を織したるも
 絹布之織の化は上越後と称其郡三四十里に方の有
 うそ織布を多し亦此編織の糸は大麻ヤタのササありて
 漢名ササ麻和名カウカシと云物の皮を揉晒して是を用
 いて草麻織なるを後まき地を生長しかりしは
 とも相玉と稱するを糸を織し先を作り糸は乃
 町に賣上り越後一玉を賣りたり物に依り越後
 の玉編織あり場の商人も毎の七月下旬仕入下り
 出舟糸の地なり九月中旬迄は買入法が草麻を
 也船に積りて遠く回航十日町と云ふ所を送り其が港の

商家と違ふをけは仕入者越後九月下旬迄も草麻の
 糸は其金言の易なりと云ふなりと云

一 右草麻の捌りハ其の店より自家或ハ小ハ賣
 也りし有、亦ハ織物も其の自家之店より其の店に
 出して調へる者もある

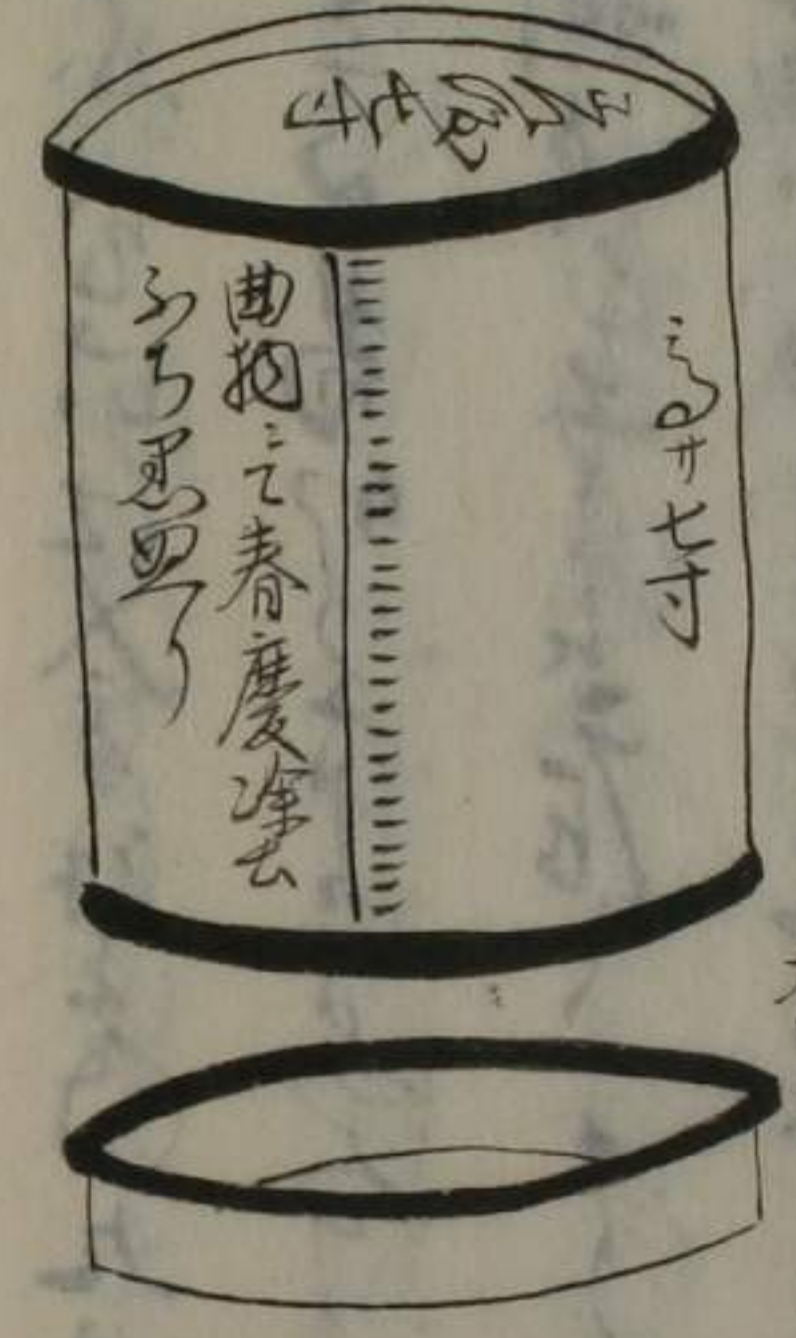
草麻車匠

- 上草麻 惣目百廿五斤 丁度光 七百文位を言
- 中同 惣目百廿五斤 六百五十文位を言
- 下同 惣目百廿五斤 六百文位を言

但年の吉凶より車匠の調へるものも下あり

一 苧麻を編布お仕立りの次第は毎年の秋の耕作の物
 と綿織の次第は足つ草を績^{うま}た夏にわたりお家の女も
 等々女といふゆゑ草を績^{うま}たを専業とせぬま
 玉織の端の方を極月中旬までよ女も入る編り
 之糸斗り二反分るといふし亦意用かやよとみるも
 績^{うま}たより草とつと編入と物と草とせよと云
草桶のつと編入と物と草とせよと云

草桶之圖



掛子

草桶の蓋をひき掛子
 につけかけしるは織を
 つとむ掛子をつとむ

脩桶之圖



脩桶の蓋をひき掛子
 につけかけしるは織を
 つとむ掛子をつとむ

一 右に如く績^{うま}たの草を正片^{ヨリ}ひき績^{うま}たを扱^うた夏にその
 ようの扱^うたの草はツムと云物^ツ右の緒のりよかれば
 ツムの隙隙は糸をひき扱^うた木の如き木^ツと云行^ツけ本を扱^う
 こよりまよと雲の如く糸が扱^うて績^{うま}たを扱^うたの如く
 本を扱^うたツムの巻^ツ付^ツ赤右の如くツ川^ツは仕^ツね^ツ同^ツ夏に
 左草桶^ツは草^ツ扱^ツたあ^ツ水^ツを^ツく^ツら^ツせ^ツ績^ツたを扱^ツた^ツ
績^ツたを扱^ツたの如く

一 右に如く油をり糸房に添て色をいしむし其うらみ
 ちりて麻糸の山皮けと人肌うらみとあひくじし湯の
 中カナと入念に五寸程うらると上りと揃カナの白
 くありとありはうらまゐの如し



一 糸房ひそく好以糸の如く亦巾二重と入糸の礼を潤ッ
 史の曝も我々夏に晒方の仕法は天れ能く見定め
 日の出く待右の皮け。浸しをうらと絞るも亦その
 如く巾二重と入をくく糸房を口けいけけるもそし
 張り積雪の上より糸を逆を夕方に晒し好以巾を後
 洗りて能くうら後うらを洗離れとて我々
 仕舞き也日くやけ制をうら凡二十余日多に晒て凡
 一ヶ月の時二十日も晒るとは糸糸の曝方をうら
 糸糸の晒方をうらとて

一 望積の糸其治之の割合にて縛るに深き糸を績
 上より績まきき也且縛る糸の深き度其倍の
 糸

縛 掛目 百八寸 下 代音又位
 花 〃 百八寸 代音又位
 深 〃 百八寸 代音又位

一 又キの糸紡車を績と掛り度其糸と同し又キの糸
 紡車分 瓢子と云ぬ(巻終るまで) 是は糸のいふ 紡車分
 瓢子(川)は仕方糸瓢子の為たの如し

坊車分 瓢子
 糸と巻後の糸



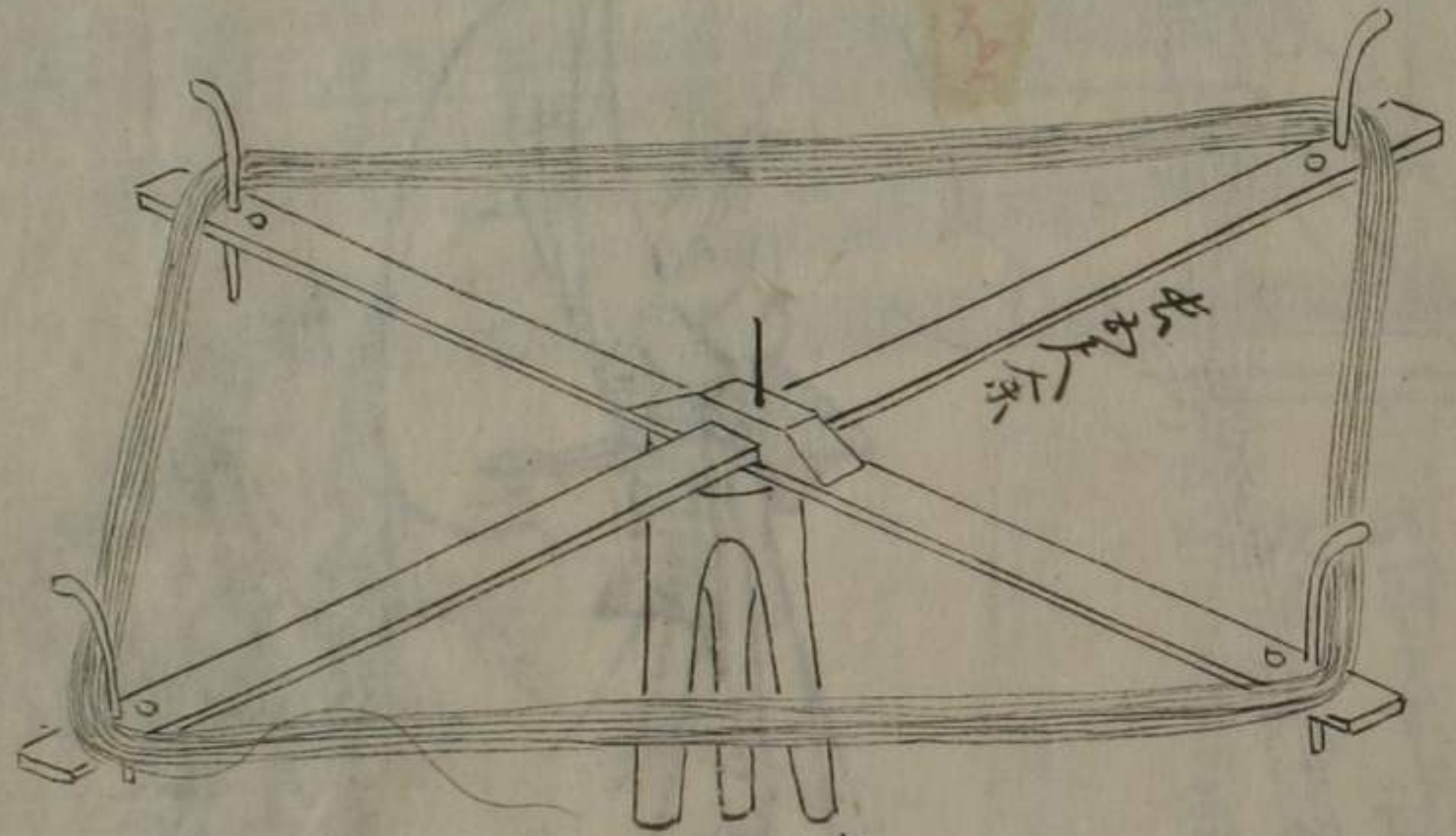
マイバカ糸桿
巻後之圖

け里のわいさや小受を
卯十神くけいせ尾首を
ゆるて首のちとけい
いさきあし



マイバカ之圖
亦廻し桿也云

け里のわいさや小受を



け裏を三つ俣と云ふ又
みせす一層の巻ハマイ
リと云ふし
四
三
二
一
カ
コ
ノ
桿
と
云
ふ
し

一右様の糸と細き布を座一糸二巾と経巻の形、の番
 丸ねぬ



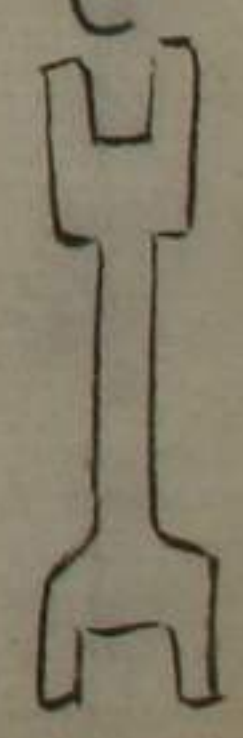
経巻之圖



け下を績と取交本俗機と因
 此糸之々合流之丈大入なり
 へら糸半一丈ぬとが

時をそふ
 といふ

一 右の糸は経糸掛り糸と云い、織機を造るに用い、



此糸を千キリト云是は、是れは、織機を造るに用い、

合し、この厚紙を入赤細き布を入巻、

布を掛機の手を、

を巻、

一 編の反幅は、織機を造るに用い、

此糸を千キリト云是は、是れは、織機を造るに用い、

一 編布を及の目方大、

此糸を千キリト云是は、是れは、織機を造るに用い、

此糸を千キリト云是は、是れは、織機を造るに用い、

糸は十の節と一ヨことと云は、

変編則り、

上の編を及ハ、十六七日に位

中の編を及ハ、十日に位

下の編を及ハ、六七日に位

混

一 編の編が、

此糸を千キリト云是は、是れは、織機を造るに用い、

信濃那の目

信濃那の目

信濃那の目

十日町遠凡七百ヶ村証ハ

越前のかきり斗織物

上田々の目凡七百ヶ村証ハ

餅かきり斗織物

同々の目凡七百ヶ村証ハ

白編斗織物

小千谷の道ハ

紅粉かきり斗織物

亦白編の内ハ白布と稱すあり是ハ堅糸斗織物也

横糸ハ織あり小織あり也ハ堅糸斗織物也

と云ふより織物といふは堅糸斗織物の糸をいふに過ぎ

互代金斗織物の糸

一糸ハ細とすり夏織ハ冬織ハ前ハ粘と川と糸切らぬの

りよは是ハ千キリハ巻糸ハ機基も竹織物も至る

ゆのりを紫菀抑と叫ぶ是れと糸を人曰卒の目凡七百

より裏表よりりつり小ぢ所中火を入るて下を

あゆみそな織ハ胡桃の油と川織物ハ粘と川織

より織物ハ亦右の如く粘と川夏何れも右に同

但横糸と粘糸

左側と織女

一上編一及仕上迄凡積り

但白化の花を信の積り

苧麻 野積糸 批目百石

但 百石 七百文

け代を賣る積り

百石

批目百石

但 百石 四百文

け代を賣る積り

百石 市上賣り

批目百文

但 百石 四百文

一 織を賣る積り

右一及の苧績日教凡五石七十日 批横糸四百日 批

一及の織を賣る積り 凡十日 批日教合百石

石の編合を賣る積り 凡十日 批日教合百石

五陽去母賣る積り 凡十日 批日教合百石

合くも九石 凡八十日 批日教合

是を日教百石

一日下之積り 凡十日 批日教合

但織を賣る積り 凡十日 批日教合

の割合千キリ入巻くも百石 批日教合 凡十日 有る見積り

一 巻の二番編斗りハ織上て水子入能り之度ひ上て敷る
 身ハ編同全ハ是上て同全そ亦川水子同全ハ福
 一 上上て後船と履買むも買むも同全そも子の扱ふこ
 一 巻ハ福編織姑の日ハ夏茶買とてその日并隣家の若者と
 集り茶と吾夜ふるふ家あり
 一 亦編上も編市ハ持白て賣人として代浅先ッ茶を買て
 持白り早速是と見ハ水佛供と是と編茶と云
 一 襦袢と草鞋とつじし是のあり是ハ襦袢の所ハ見廻
 ありと云

編布と織圖



一 編布市と云ふは奥羽郡十日町小千谷場といふに
限り夏や端のお月等の時作るとも右之の
編國をたか江都京左坂の大店と云ふをた市の目
中と云ふと日限と極之の律も編賣おの者建
入市り毎々大井田月中旬に編布始り夏や右の場
而も市と云ふ群集する十日斗りの月を又と云ふと編布
仲買やり買の者た其のありと也編賣取とあり或
及節の茶をとり大勢集りて買入る編と買
とあり何の茶をも編一反や浅文織りの割合と
以其宿に拂ふ夏仕事あり且又初編は多くあり中

店にこの編の雛形といふ雛並より不ふれハ仲買取の
ハ入るを編布初日より日殺十日斗も過ぎ二高の編
出てハ仲買の者ハ是と買ふハ也

一 右之を不月を編一反や浅文織り口浅りして編作
と云取之を不月晒代一反や浅文織り一反や浅文
と云取之を不月晒代一反や浅文織り一反や浅文
と云取之を不月晒代一反や浅文織り一反や浅文

一 苧麻ハ羽別米澤の産品にして當地にありこれハ其
耕方並製作の夏を夏と云ふ未詳

一 秋後編の夏ハ近世開板の山海名産品也其
以書ハ淺觸と專しして仕業のつとを好し亦有と

雪子曝衣の圖あり是思らくは誤るべし其故を以て
ふ前子云如く昔字と續布とを例へ未考を雪解の注
を織初ておるは其不々夥く諸國一擲を受ふ
進ハとら積雪の注を奏の注る色を綿布とす
ふ一雪晒と云ハ皆糸此月晒と云ハ終

右縮布之記越后国魚沼郡妻在庄田澤邸
之更於村山氏旅宅寛政庚申年夏四月且
撰之 東都 澁谷人亀協笈自画述



